

## 令和3年度第1回刈谷市総合教育会議 議事録

### 1 日 時

令和4年1月27日（木）午後1時30分～午後2時20分

### 2 場 所

刈谷市役所 701会議室

### 3 議 題

（1）意見交換 テーマ「コロナ禍での学びの保障について」

### 4 出 席 者

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 市 長                | 稲垣 武  |
| 教育委員会 教育長          | 金原 宏  |
| 教育委員会 委員（教育長職務代理者） | 鶴田 英孝 |
| 教育委員会 委員           | 浅井 優  |
| 教育委員会 委員           | 小川 耕示 |

### 5 欠 席 者

|          |       |
|----------|-------|
| 教育委員会 委員 | 石田 芳加 |
|----------|-------|

### 6 会議構成員以外の出席者及び事務局

|                   |        |
|-------------------|--------|
| 教育部長              | 宮田 孝裕  |
| 教育総務課長            | 柴田 桂児  |
| 教育総務課 課長補佐兼施設係長   | 加藤 史彦  |
| 教育総務課 総務係長        | 安藤 美奈  |
| 学校教育課長            | 加藤 祐介  |
| 企画財政部長            | 西村 日出幸 |
| 企画調整監兼企画政策課長      | 伊藤 雅人  |
| 企画政策課 課長補佐兼政策推進係長 | 内野 康孝  |
| 企画政策課 経営管理係長      | 見田 裕子  |
| 主事（書記）            | 榊間 悠太  |

### 7 傍 聴 人

0名

## 1 市長あいさつ

### 刈谷市長 稲垣 武

皆様、こんにちは。市長の稲垣でございます。

本日は大変ご多忙の中、総合教育会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

令和2年1月15日に日本国内で初めて感染者が確認され、23日に中国の武漢で都市の封鎖が行われましたが、その年の東京オリンピックにおけるバスケットボールのカナダの女子代表チームのキャンプ地として刈谷市に来ていただく事前のご案内ということで、私は、1月19、20日頃にカナダへ出張させていただき、カナダのバスケットボール協会の会長とお話をさせていただいておりました。

その後、帰国したところでコロナが発生したという話を聞きました。それから2年が経ち、現在、第6波ということで、ステルスオミクロンという言葉も出ているようですが、南アフリカで発生したオミクロン株により急激に感染が拡大しております。

昨日、刈谷市では感染者が70名となっております、数の問題ではないとは言われておりますが、やはりできたらかかりたくないなという気持ちの中で、手洗いや手指消毒などをこれからも実行していかなければいけないなと思っているところでございます。

そんな中で、教育現場でも大きな変化がありました。一つは、良い影響でございますが、「GIGAスクール構想」が加速化されました。プロジェクターなどICT関係の導入が進んだというところでございます。タブレット端末については既に導入させていただいておりますが、今年度の12月補正予算を計上し、プロジェクターと大型ディスプレイをこれから導入していく予定でございます。このことにより、授業がこれまでとは一変するのではないかと考えております。タブレットの使用や、黒板にプロジェクターで様々な場面の投影を行うなどの授業になると思いますが、今後の先生方のご活躍に期待しております。

また、第2次刈谷市教育大綱におきまして、「育てたい子ども像」を「共に生き、未来を創造する子ども」としておりまして、この新しい大綱に則って進めさせていただきたいと思っています。

本日は、「コロナ禍での学びの保障」というテーマで、皆様と意見を出し合い、より充実した教育について考え、様々な現場につなげることができる時間にしたいと思っております。

皆様のお力添えを重ねてお願い申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いします。

## 2 議 題

### (1) 意見交換 テーマ「コロナ禍での学びの保障について」

・「コロナ禍での学びの保障」について学校教育課長、教育総務課長から資料1により説明

＜以下各委員等意見要約＞

### 鶴田委員

初めに、「コロナ禍での学びの保障」ということですが、刈谷市は毎年教育委員会で学校訪

間を行っており、全学校の学校訪問に我々委員が同行させていただいております。その折に感じたことを私の意見としてお話しさせていただきます。

昨年、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で授業が止まってしまった時期がありました。先生方に大変努力いただき、その遅れを取り戻していただいたと思っております。今年の学校訪問では、昨年の努力に加えて、より一層様々な工夫をしていただいているという印象を受けました。

次に、教育現場における情報機器の活用が進んだと感じました。刈谷市は大変早い時期に一人一台タブレットの導入、また大型モニターの導入がされました。この充実した教育環境、教育大綱の中での礎を具体的な学び、確かな学力の育成に繋げているという姿を具体的に见ることができました。

雁が音中学校では、タブレットで各々が述べた意見を大型モニターにプロットし、お互いの意見を共有して議論を深める様子を見ることができ、また、平成小学校では、体育の授業で子どもたちがお互いに動画撮影をして、アドバイスをし合う様子を見ることができました。

また、情報機器の活用以外についても、授業の工夫が随所で見られました。推理ゲームのように子どもたちに問いかけ、子どもが謎解きをしながら自分で学んでいく授業や、実物のせみの抜け殻を使った授業など様々な興味深いものがありました。

全体としては、各学校においてコミュニケーションに力を入れ大変な努力をいただいていることを感じました。特に子ども一人ひとりに寄り添うことを意識し、教職員が昇降口で出迎えることや、1クラスの全児童とコミュニケーションをとることを行っている学校もありました。また、教室の中についても様々な工夫やあたたかさを感じました。このような雰囲気は、一人ひとりに物理的ではない居場所を与え、自分を肯定し、「豊かな心の育成」に繋がるのではないかと考えます。

中学校では、より一層生徒たちを肯定し、自立を促す指導がされているようで、生徒会活動などかなり自治的、自主的な活動がされているようでした。今年度、朝日中学校は、「ソニー子ども科学教育プログラム」において、全国最優秀賞を受賞しましたが、そのような雰囲気も評価された結果だと思っています。

しかしながら、コロナ禍で苦戦している部分も感じられました。コロナの状況によっては、授業中の話し合いが行えないなど子どもたちにかなりストレスがかかっていることも強く感じました。また、地域とのつながりが本当に希薄になってしまっていると私は感じました。地域との関連行事はほぼ全て中止となり、地区の皆さんとの交流もままならず、PTA活動も思うようにできないなど教育の基礎、「礎」となるものが揺らいでしまうことになりかねないと個人的には思っています。

従来、刈谷の各地域は学校を支援するというよりも、学校のパートナーとしてともに歩んできたという思いがあります。コロナ禍で明日明後日すぐにどうできるというものではないと充分理解はしていますが、状況が落ち着いたらこの点を早急に考えていく必要があるのではと考えます。

### 浅井委員

私も、学校訪問をさせていただいて感じたことをお話しします。

昨年から続くコロナの不安を抱えつつの学校訪問の開始であり、少しでも感染リスクを減らすためにオンライン授業を積極的に活用し、接触機会の低減を進めた方が良いのではないかとも思っていました。しかし、富士松南小学校でマスクをしていても表情が伝わるほどみんなが楽しそうに体を揺らして合唱している姿を見たとき、心と体が震えるような感覚を覚えました。「ああ、これが学校なのだ」と同じ空間を共有することで生まれるプラスの相乗効果のようなものをその合唱から感じました。また、朝日中学校では、ある女生徒が「世の中で起こっていることについて自ら情報を取りに行く必要があると感じた」との趣旨を発言していた様子を見ることができ、微笑ましく感じました。

一例ではありますが、このように教室という空間を共有し、その中で感じる周囲の反応や、熱量等が学びの質を向上させるのではないかと感じました。

社会は、このコロナ禍をきっかけにICT化が一気に進み、学校でも学習端末やそれらを支援する環境が迅速に整備され、刈谷市の学校教育を重要視する姿勢に感謝しています。

今後の感染状況の推移を見通すことは難しいですが、今後の社会に対応するためには、ICT活用は間違いなく必至であると思います。しかし、その利便性や効率化と同等に、アナログ環境だからこそ学びうるものがあると思います。それら双方を柔軟に取り入れて、より良い学校運営がなされることを希望します。

最後になりますが、オンライン授業や自宅で利用できる学習支援サイト等の導入はコロナ禍がきっかけではあったかもしれませんが、結果的に不登校児童の学校外での学びの継続や家庭の経済事情等で塾には通うことができない児童へも、一律にプラスαの学習支援の機会を提供することにつながる取り組みになったと思い、二重の意味でありがたく感じています。以上です。

### 小川委員

私も、去年の学校訪問をさせていただいた際の感想をお話ししますと、急激にICT機器が普及されているので、ハードウェアの面では非常に充実した環境が揃っていると感心しました。しかし、ICT機器の使い方や授業の進め方は学校によって異なっており、各学校の違いをいかに埋めていくかということが大事だと思いました。

また、研究発表会などで先生方が議論している姿を見ると、先生方は非常に教職としてプロフェッショナルだと感じました。ICT機器に関しての交流の図り方や、現場への活かし方についてより良い方法を見出していただけられることを楽しみにしております。

ぜひ、ハードウェアの面のみでなく、ハードウェア以外の面も充実したものになるような取り組みを教育長をはじめ先生方をお願いしたいと思っております。よろしくお願いします。

### 金原教育長

初めにタブレットのお話ですが、去年の今頃、導入しまして、徐々に進めてきたというのが正直な感想です。

去年の5月にある中学校でクラスターが発生し、2週間学年閉鎖となった時に、最初の3日間でオンライン授業の準備をして、次の週からオンライン授業を行いました。時間割をしっかりと組んで授業を行うことができたということが一つのきっかけになって、その様子を全学校の先生たちが見に来ながら、「やれるのではないかな」という気持ちになって始まったというのが、タブレット、またオンライン授業の始まりです。そして、約一か月後に、先生方の勉強の場である刈谷市教育研究会もオンラインで行い、すべての学校の先生が参加することができたので、少し抵抗感がなくなってきたと思っております。ここにきて学級閉鎖ということがありますが、徐々に授業の中でタブレットを導入して、今でしたらどこでもオンライン授業ができると思っております。

先ほど委員さんの話にもありましたが、タブレットを使った授業は活用がされてきておりますが、まだ学校ごと、学級ごとの差がありますので、そういった差は無くしていきたいと思っております。

一方で、今まで授業に参加できなかった子どもがタブレットを使って自分の意見を書くことができ、それを大型モニターに映し出すことができることによって、クラスの全員が授業に参加できるようになったことが一番良いことであると思っております。また、大型モニターについて、使い方によってより楽しい授業にすることができるのではないかと考えておりますので、こういったところは研究をしていきます。

次に、教育大綱に沿って振り返ります。

教育大綱の中の「学ぶ力」や「学ぶ心」の育成で、主体的に学ぶという言葉が出てきますが、ある中学校では、授業に対してどのような気持ちで臨むかということを生徒議会で決めていました。今まで私は学習について議題に挙げる生徒議会を見たことがなく、勉強について子どもたちが決めるということは非常に良いことだなと、主体的に学ぶ子どもたちに近づいていると思い、こういったところも広げていきたいなと思っております。

「自己肯定感・自己有用感の醸成」で豊かな心というところにありますように、行事の重要性を再確認しました。行事を通して、子どもたちがお互いに助け合い、認め合い、高め合うことで成長していくのを感じました。ある中学校の保健の先生から「昔と比べると行事が少なくなったから、子どもが大人になっていないです」という話もありましたが、みんなのために頑張ろうという気持ちを育てるには、行事は大事だと思っております。豊かな心の面では、そういったところを大事にしていきたいと思っております。

健やかな身体というところにつきましては、長い放課の時間に思いっきり遊ばせることや、刈谷体操を行うことなどが効果的であり、また、体育の授業の運動制限がかかっておりますので、個々の基礎トレーニングを中心にして体育の授業をやるべきであると思っております。

心の面では、不登校の子どもたちが増えてきておりますので、対応が必要であると思っております。スクールホットアシスタントや心の教育相談員の配置、すこやか教室の設置をしていただいておりますので、連携を図っていきたいと思っております。家から外に出られない子どもにとっては、すこやか教室にタブレットを導入しておりますので、そこで勉強することで出席扱いにしたいと思っております。

また、家庭学校地域につきましては、コロナ禍で地域の方、保護者の方々に大変協力いた

だいておりますので、改めて大事にしていきたいと思っております。

「共に生きる」という大きな子ども像がありますが、コロナ禍で、登校時の通学団の中でも距離を取って歩きなさいという指導をしておりますが、距離を取りながらも高学年の子が低学年の子の面倒を見て、気をつけて周りを見ながら登校しているという印象を持っています。掃除等の縦割りの活動についても、高学年の子が低学年の子に教えるなど、授業の中で異学年交流を行っていますので、「共に生きる」というのはこういう日頃の生活の中で大事にされるべきだと思っております。特別支援学校と一般校との交流も、オンラインが中心でしたけれども子どもたちは喜んでくれておりますので、来年度はもう少し現場でやっていきたいと思っております。刈谷市に環境を整えていただいております、学校の方でもやることをやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

### 刈谷市長

コロナ禍でのGIGAスクール構想の関係について、刈谷市としてはいち早く取り組むという方針のもと様々な機器を導入させていただいており、担当課とも、他市の機器の導入状況を共有しております。私は、企画財政部長と副市長をやらせていただいたのですが、当時も教育委員会から電子黒板の導入の必要性についてお話が出ておりまして、時代の流れもあり、この度、導入させていただいた経緯がございます。

また、アメリカでは去年の夏の時点で、6歳でワクチンを2回接種しており、その親は3回接種しているということや、幼稚園でも園児と先生がZOOMでやり取りをし、ブルーライトカットの眼鏡をするよう指導しているなどの話を聞き、アメリカの教育は日本とは少し違うと思ったところです。また、小学校一年生から、月曜から金曜まで6時間授業、つまり一週間に30時間を40分授業で行っているという話も聞き、驚きました。そういった意味でも教育環境が全く違うと思いました。

刈谷市でも小学生については、今年の3月からワクチンが接種されるようになると思われるので、可能であれば接種していただければと思います。これはあくまでも自由ですので、いろいろな情報提供をさせていただく中で、決めていただけたらなと思っております。

### 3 その他

令和4年度総合教育会議 1月の定例教育委員会に合わせて1回開催予定